

検討段階資料が含まれるため、一部資料を非公開としております。

長期維持管理技術委員会 2019 年度第 2 回 議事要旨

日時：令和元年 11 月 18 日（月）10:00～11:30

場所：阪神高速道路（株）本社 8F 第 1・第 2 会議室

出席：委員長：宮川 豊章（京都大学 特任教授）

委員：小林 潔司（京都大学 特任教授）

森川 英典（神戸大学大学院工学研究科 教授）

杉浦 邦征（京都大学大学院工学研究科 教授）

議事：

1. 前回議事要旨（案）の確認
2. 大規模更新事業の状況報告（喜連瓜破付近）
3. 大規模更新事業の状況報告（湊川付近）
4. R C床版の更新・修繕に係る検討状況
5. その他

主な意見等

○大規模更新事業の状況報告（喜連瓜破付近）

- ・ 外ケーブルは腐食による遅れ破壊の可能性も考えられる。遅れ破壊の場合には、腐食量が小さくても破壊感受性が高い。腐食環境を排除することが重要である。
- ・ 外ケーブルがなければ、たわみが進行する可能性がある。垂れ下がる前であれば連続化する選択肢もあったが、喜連瓜破は既にたわみが進行しており、連続化が困難なため、外ケーブルになったと認識している。外ケーブルが破断した時に垂れ下がりの進行程度が不明であり、冗長性も不明確である。支持点を増やすことが不可能であれば、架け替えと考えられる。

○大規模更新事業の状況報告（湊川付近）

- ・ 地震力による基礎への負担の程度で基礎の大きさが決まるが、上部工の更新方法がまだ決まっていない。スケジュール感を意識して検討する必要がある。

○R C床版の更新・修繕に係る検討状況

- ・ 大規模修繕対象と判定された箇所についても、検討段階において必要に応じ詳細調査を実施することも含め、詳細検討を進めること。

○その他

- ・ 世界のアセットマネジメントは 2 つの方向で様変わりしてきている。1 つは 3 次元化を設計図から進めること。もう 1 つは点群データから整理する 3D である。この 2 つの方法をどのようにハイブリッド化するのか。H-BMS もこちらの方向に進化させる必要があると考える。
- ・ プレキャスト床版では間詰め対策が必要であり、50 年後の間詰めに不具合が生じないように性能を議論する必要がある。また、高性能床版防水の性能を確認する必要もある。
- ・ 5 年間の点検が終わり、この 5 年間の点検の結果と大規模事業の内容をどのように

H-BMS に活かしていくか，検討を進めてほしい。

以 上